

第 32 回 高橋記念賞受賞者表彰

高橋記念賞は、故高橋愛次氏の功労を記念し、旧社団法人軽金属協会および旧軽金属精錬会を経由して遺族および扶桑軽合金株式会社（現：株式会社アーレスティ）より寄贈された基金によりアルミニウム合金鋳物・ダイカスト製品の製造ならびに関連のある工業技術の進歩発展に寄与した現場技能職を対象に贈られる。高橋記念賞選考委員会（委員長 新家光雄）の審査を経て、9月18日（金）に開催された軽金属学会第98回理事会において慎重審議の結果、下記のとおり4名の授賞を決定、(株)軽金属学会第117回秋期大会第1日目の11月14日（土）に電気通信大学において表彰式を挙行了。

受 賞 者



朝原 仁 君
(住友軽金属工業(株))

表 彰 理 由

朝原 仁君は、昭和37年4月に住友軽金属工業株式会社に入社し3年間の職業訓練課程を修了後、一貫して名古屋製造所でアルミニウムスラブ・ピレットの溶解鋳造に従事してきた。

鋳造工場では、スラブおよびピレットの当初から現在までの全鋳造ラインで溶解・鋳造作業を担当し、監督者（作業長）としても全ラインを担当した。鋳造に関する幅広い知識・経験を有する、当社において他に類を見ない貴重な人材である。平成9年以降は管理職（担当副課長もしくは副長）として工場運営の補佐や技術職も担当してきた。

鋳造技術面でも各種新技術・新設備の立上げに尽力してきた。溶湯品質面では、各種ろ過技術の実用化（ガラスクロスフィルタ、ボールフィルタ、プレートフィルタ、チューブフィルタ）、生産能力向上面では幅可変鋳型、炉作業専用車、溶解バーナ（石炭バーナ、重油バーナ、LNGバーナ、高速・大型バーナ、リジェネバーナ）の改良・実用化に取組み、大きな成果を上げた。

溶解原料のコストダウンにも注力し、原材料実績のオープン化や市中屑・UBC再生塊・PS再生塊の適正使用化を実現した。

以上のように、朝原 仁君は、入社以来鋳造一筋で現在の名古屋製造所鋳造工場の基礎を築き上げてきた第一人者である。現在は名古屋製造所鋳造技術部において、原料コストダウン課題に取り組むとともに、若手技術者および現場作業者の指導・育成および技能伝承に尽力し成果をあげている。

受 賞 者



安達 武一 君
(株)デンソー

表 彰 理 由

安達武一君は、昭和52年3月に日本電装学園（現 デンソー工業技術短期大学）を修了後、自動車のエンジンスタータのダイカスト部品の生産、工程改善に従事し、30年間に500型以上の立上げ経験を持つ。

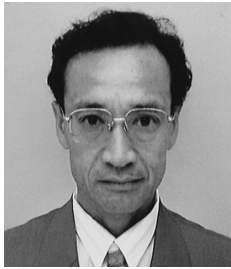
その間の現場改善活動のうち、近年では金型段取りの改善、多数個取りかつスタータダイカスト部品の無切削化にチャレンジし、ダイカスト部品の競争力向上に大きく貢献してきた。

金型段取り改善では、金型交換作業を治具の改良等を行うことで、段取り時間5分以下を実現し、稼働率向上や在庫低減に大きく寄与した。

多数個取りでは、独自の構造を持った金型を生産技術者とともに立上げ、キャビティでのアルミニウム溶湯の流れ方、凝固収縮が均一にできるこの金型の特徴を活かし、フレームの無切削化を実現した。ウイークポイントとなる金型温度の変化を金型管理で抑えこみ、約12万台／月のスタータダイカスト部品を無切削で流動し、おおよそ450万円／月のコストダウンに結び付けた。

人材育成としては、若手の指導を行うことは当然のこと、自らが国家技能検定1級を取得後は、検定の講師、試験の補佐員を行い、次の時代を担うダイカスト技能員の育成に注力している。

受賞者



小宮 博樹 君
(九州三井アルミニウム
工業㈱)

表彰理由

小宮博樹君は、昭和45年4月に三井アルミニウム工業株式会社に入社し、工場の建設段階から深く関与して、工場立上げ後はアルミニウム精錬に従事した。

昭和61年にブラジルのアマゾンアルプラス社に派遣され、技術指導した後、昭和62年に三井アルミニウム工業株式会社の鋳造事業を引継いだ九州三井アルミニウム工業株式会社に入社して、アルミニウム鋳物用合金地金の製造業務に携わった。

平成元年からは砂型アルミニウム鋳物製造に従事し、当時は生型と自硬性のラインだけであったが、生型自動造型鋳造と砂型低圧鋳造のライン導入に関わり、増産に大きく貢献した。その間、安全・生産・品質の向上と環境改善を中心的立場で推進した。品質の向上では、①脱ガス装置の最適化によるガス欠陥の減少、②型合せ法改善による型ずれ防止化、③湯流れの整流化による滓巻き欠陥の抑制を行い、不良率を1/5に低減させた。また、砂型低圧鋳造ラインで500kg／個を越す半導体製造装置用高品質部品を量産化した功績は非常に大きい。これらの功績によって、生産量は配属当時（平成元年）の6倍（600t／年）に至っている。

同君は平成元年以来、約20年間一貫してアルミニウム鋳物製造に従事し、様々な経験を活かしながらリーダーとして部下の指導や若い人材の育成に尽力している。

受賞者



弓山 和久 君
(住友化学㈱)

表彰理由

弓山和久君は、昭和49年4月に住友化学工業株式会社東予製造所に入社し、製錬課に配属され、普通アルミニウム電解炉操業を皮切りに、昭和57年にはインドネシアとの国家プロジェクトであるアサハン計画で建設された製錬工場での操業並びに技術指導に携わった。

その後、昭和59年帰国以降は、高純度アルミニウムの三層電解工場、偏析工場、鋳造工場の操業全般を担当し、その間にプロセス改善・改良面で多大な貢献をした。具体的には、三層電解においては、業界未踏の電力原単位10,000kWh/t-Al以下を達成していること、また、高純度アルミニウム製品の需要増加に伴う品種数の増加に対応すべく、原料から最終製品までをカバーする在庫管理システムを導入したり、得られた分析値や重量の優れた管理体制をつくり、高純度製品全般の品質安定化に大きく寄与していることなどが挙げられる。

さらに、現在も製造課副課長として活躍し、ISOやTPM等の諸活動等を通じて後進の指導、育成にも努めている。